

# 技術力 (Technology)・情熱 (Passion)・信頼 (Reliance)

を基盤として4本の柱を確立するTPRグループの実現

1の柱 パワトレ商品のダントツNo.1を追求  
3の柱 安全・環境・防災の徹底

2の柱 新規事業の積極展開をスピードアップ  
4の柱 働き甲斐のある職場づくり

## 株主の皆様へ

平素は格別のご高配とご支援を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

本日の定時株主総会終了後の取締役会で、会長兼CEOに就任いたしました山岡でございます。前任の富田同様、何卒よろしくごお願い申し上げます。

当連結会計年度に判明した連結子会社による不適切な会計処理の再発防止につきましては、現在、株式会社ファルテックでは再発防止策を策定・実行しておりますが、当社におきましても、コンプライアンス強化を図るべく、グループ・ガバナンス統轄室を設置し、国内外のグループ各社を対象に会計処理に関わる不正など、業務全般にわたる不正行為を未然に防ぎ、また、不正行為を早期に察知できる仕組みを構築・運用することで、グループ・ガバナンスの強化を図ってまいりますので、何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、弊社第85期が終了いたしましたので、概況につきご報告申し上げます。

### 引続き好調な業績を挙げることができました。

2017年度、弊社第85期業績につきましては、緩やかな景気回復の影響を受け、売上高は前年比6.8%増の1,873億円を計上して8年連続の増加となりました。加えて、継続して取り組んでおります原価低減活動と経費圧縮の結果、営業利益207億円(1.3%増)、経常利益240億円(3.0%増)と増収増益となりました。

一方で、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前期において投資有価証券売却益などの一時的要因があったことにより、121億円(1.0%減)と減少致しましたが、営業利益率11.1%、ROE12.6%と利益率は引き続き高い水準を維持しております。

株主様はじめ、皆様の厚いご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。配当につきましては、当初予想通りの1

株当たり26円とし、お支払い済の中間配当26円と合わせ、年間52円とさせていただきたいと存じます。

### 新中期経営計画のスタート年度です。

今年度は、2020年度を最終年度とする「20中期経営計画」(20中計)のスタート年度となります。17中計での「Innovate & Expand ~革新と拡大~」を、更にグローバルに、更にスピーディーに実現するために、新しいスローガンとして「Innovate & Expand / Globally & Speedily (IEGS)」を掲げました。

国内、海外ともに経営への懸念材料は多く、当社を取り巻く環境も益々厳しくなるものと覚悟しております。20中計では「経営の4本柱」①パワトレ商品ダントツNo.1の追求、②新規事業展開のスピードアップ、③安全・環境・防災の徹底、④風通しの良い働き甲斐のある職場づくりの徹底を掲げ、企業価値の向上に向けてグループ全社が売上の増強、技術力の向上、コストの一層の圧縮に全力で取り組む所存であります。今後とも、株主の皆様の変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月28日

## 第85期 報告書

2017.04.01-2018.03.31

**Innovate & Expand /  
Globally & Speedily**

**TPR**

TPR株式会社

証券コード：6463(東証一部)



## 新会長兼CEOに聞く

平成30年6月28日開催された第85回定時株主総会後の取締役会において、代表取締役の役位変更が議決され、富田前会長兼CEOは代表取締役取締役会議長となり、後任の代表取締役会長兼CEOには山岡前副会長執行役員が選任され、就任いたしました。

### Q1 会長兼CEO就任にあたり、抱負をお聞かせください。

自動車産業は、100年に一度と言われる大変革の時代を迎えました。車の電動化拡大に伴い、エンジンを搭載する車は2030年から2040年にピークアウトを迎えると言われていますが、足元は増加基調にあります。そうした中、当

社は今後も成長を続けるエンジン等パワートレーン市場を確実に捕捉する一方、非パワートレーン事業の拡大に注力して事業基盤の強化に努めます。更に、これらの事業基盤を支える安全、環境、防災の強化や人材育成、働き甲斐のある職場づくりを推進します。

### Q2 パワートレーン、非パワートレーンそれぞれの事業について、少し詳しくお願いします。

パワートレーン事業は、主力製品であるピストンリング、シリンダライナ、バルブシート等について、ますます競争が激しくなる中で常に一步先を行く技術開発、低コスト化、海外パートナーとの連携強化によってお客様のニーズを先取りし、受注拡大に努めます。

非パワートレーン事業は、ナノ素材の開発、次世代キャパシタの開発等先端技術への積極的な投資を進めると同時に、既存の樹脂とゴムの事業拡大を目的に新設した「ゴム・樹脂営業部」を中心に、グループ会社の樹脂とゴム両部門のシナジーによる新商品の提案やクロスセル等、国内外で積極的な拡販活動を展開します。

### Q3 今年度からの20中計（中期経営計画）について簡単にご説明下さい。

20中計は、自動車産業の大きな変革の中にあって、当社グループが今後持続的に成長するための重要な中期経営計画となります。20中計の「経営4本柱」である「パワトレ商品のダントツNo.1」「新規事業の積極展開」は上述の通りですが、これらの事業活動の礎となる「安全・環境・防災の徹底」「人材育成と働き甲斐のある職場づくり」を推進すると同時に、企業グループ経営の効率化、高度化により、大きな環境変化に追従できる強いTPRグループの実現を目指します。

### 経歴

生年月日	1948年 9月 3日	
略歴	昭和46年 4月	当社入社
	平成15年 6月	取締役営業企画部長
	平成17年 6月	執行役員営業企画部長
	平成19年 6月	常務役員兼TPRアメリカ社長
	平成21年 6月	常務取締役兼TPR商事(株)取締役社長
	平成22年 6月	専務取締役兼TPR商事(株)取締役社長
	平成23年 6月	代表取締役社長兼COO
	平成29年 6月	代表取締役副会長執行役員
	平成30年 6月	代表取締役会長兼CEO





代表取締役社長兼COO  
岸 雅伸

## 業績の概況

当連結会計年度を取り巻く経済環境は、不安定・不透明要因を抱えながらも、総じて穏やかな景気回復で推移致しました。我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が持ち直し、設備投資や輸出も増加したことから、穏やかな回復基調で推移致しました。世界経済は、中国の経済成長の鈍化や米国・欧州の政治・政策リスク、中東や北朝鮮などの地政学的リスクはあるものの、米国で景気の回復が続き、中国をはじめとするアジアも景気の持ち直しが見られるなど、総じて回復基調となりました。

当社グループが主として関連する自動車業界におきましては、国内は小型車を中心に販売が回復し、輸出も増加致しました。海外も米国で販売が減少したものの、アジア・欧州で需要が増加し、世界の自動車生産台数は前期に比べて増加致しました。

こうした経済環境のもと、当連結会計年度の売上高は6.8%増の1,873億円となりました。利益面では、連結子会社である株式会社ファルテックにおける過年度の不適切な会計処理に係る修正があったものの、売上増による増産効果と継続的な原価低減活動の推進、経費圧縮等を実行し、営業利益、経常利益ともに増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度において投資有価証券売却益などの一時的要因があったことにより減少致しました。

当連結会計年度の業績数値につきましては、次のとおりであります。

売上高	1,873億98百万円	(前年同期比 6.8%増)
営業利益	207億75百万円	( // 1.3%増)
経常利益	240億23百万円	( // 3.0%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	121億54百万円	( // 1.0%減)

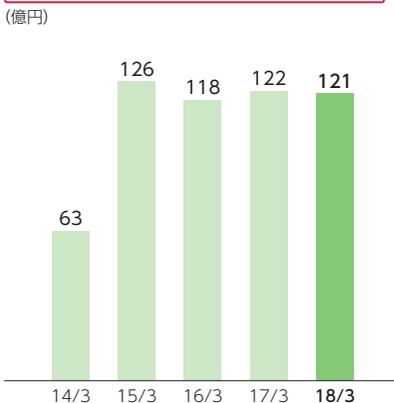
## 2018年3月期連結決算ハイライト

■ 売上高	1,873億98百万円
■ 営業利益	207億75百万円
■ 経常利益	240億23百万円
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	121億54百万円

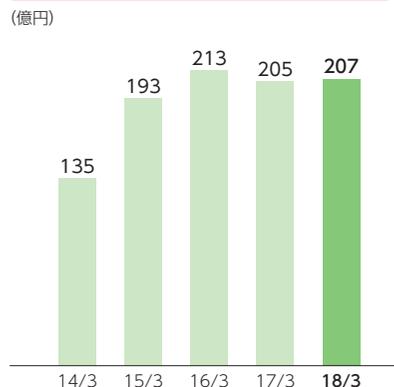
売上高 1,873億円 (前年同期比 6.8%増)



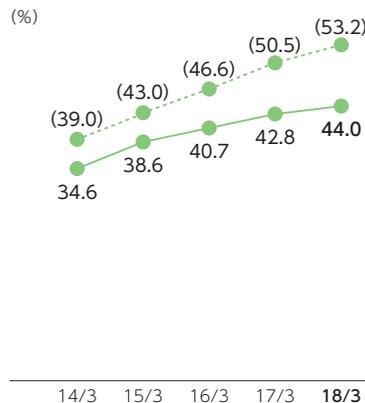
親会社株主に帰属する当期純利益 121億円 (前年同期比 1.0%減)



営業利益 207億円 (前年同期比 1.3%増)



## 自己資本比率



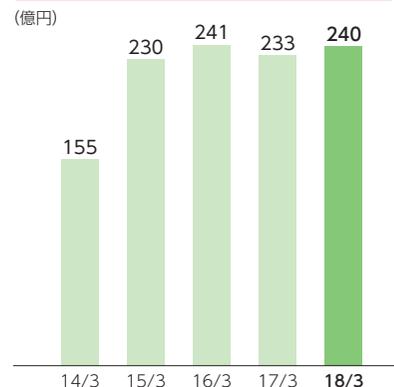
※ ( ) 内は、総資産から現預金を控除した場合の数値

## 2019年3月期連結業績予想

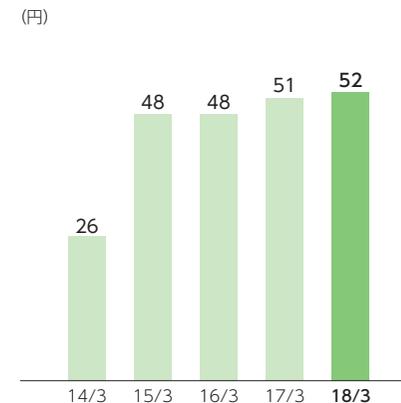
次期の業績見通しにつきましては、現時点においては受注動向を考慮し、次のとおり予測しております。

■ 売上高	1,937億円
■ 営業利益	206億円
■ 経常利益	237億円
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	123億円

経常利益 240億円 (前年同期比 3.0%増)



## 1株当たり配当金



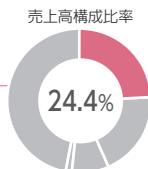
# セグメント情報

## セグメント業績

(2018年3月期)

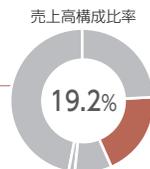
T P R グループ (ファルテックグループを除く)

### 日本



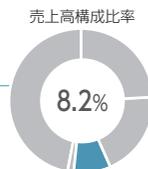
日本は、国内自動車生産台数の増加等により、売上高は457億6百万円で前期に比べて36億30百万円の増収となりました。セグメント利益は原材料の高騰等により52億84百万円で前期に比べて3億79百万円の減益となりました。

### アジア



アジア地域は、中国やインドで自動車生産台数が増加したこと等により、売上高は359億7百万円で前期に比べて33億26百万円の増収となりました。セグメント利益は116億14百万円で前期に比べて7億79百万円の増益となりました。

### 北米



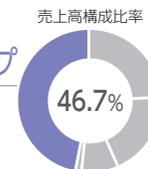
北米地域は、米国で受注が増加したことや為替の影響等により、売上高は154億44百万円で前期に比べて4億36百万円の増収となりました。セグメント利益は原材料の高騰や製品構成の変化等により18億4百万円で前期に比べて2億77百万円の減益となりました。

### その他地域



その他地域は、欧州の市場回復や南米の受注増加等により、売上高は28億47百万円で前期に比べて6億1百万円の増収となりました。セグメント利益は8億98百万円で前期に比べて3億81百万円の増益となりました。

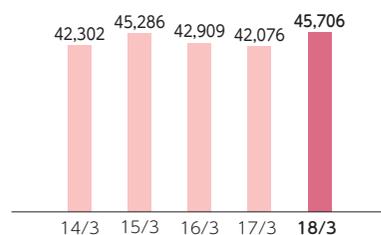
### ファルテックグループ



国内自動車生産台数の増加並びにミリ波レーダーカバーや電装品など新商品の受注増加等により、売上高は874億93百万円で前期に比べて40億5百万円の増収となりました。セグメント利益は過年度の不適切な会計処理に係る修正等により9億25百万円で前期に比べて6億55百万円の減益となりました。

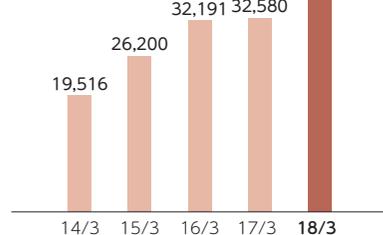
### 売上高

(百万円)



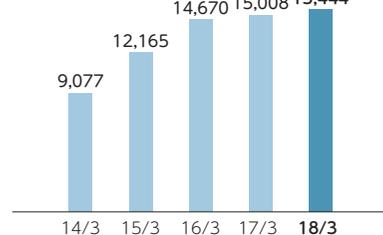
### 売上高

(百万円)



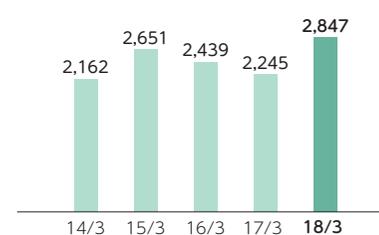
### 売上高

(百万円)



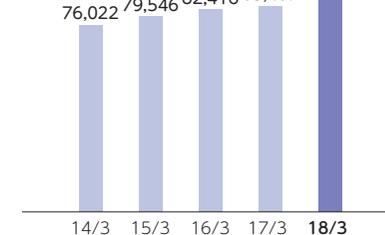
### 売上高

(百万円)



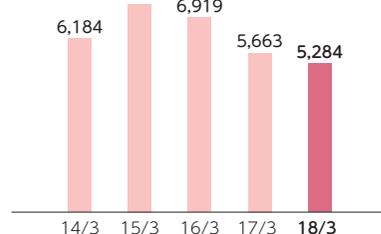
### 売上高

(百万円)



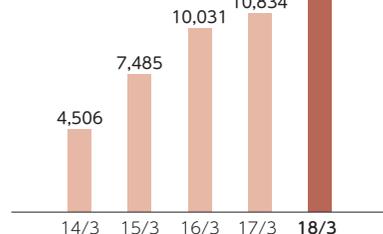
### 営業利益

(百万円)



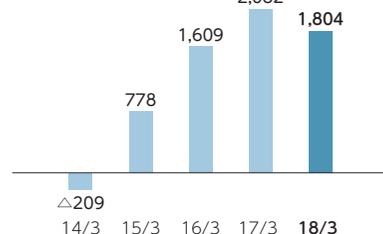
### 営業利益

(百万円)



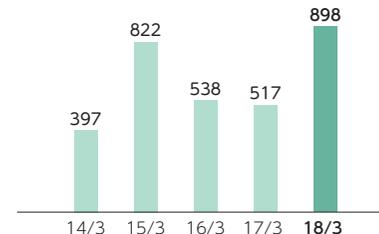
### 営業利益

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (要旨)

単位：百万円

科目	前期 (2017.3.31現在)	当期 (2018.3.31現在)
資産の部		
流動資産	99,368	113,754
固定資産	109,564	120,368
有形固定資産	64,583	68,274
無形固定資産	1,929	2,888
投資その他の資産	43,051	49,206
● 資産合計	<b>208,932</b>	<b>234,122</b>
負債の部		
流動負債	62,138	72,010
固定負債	31,397	30,885
● 負債合計	<b>93,535</b>	<b>102,896</b>
純資産の部		
株主資本	76,168	86,619
その他の包括利益累計額	13,314	16,397
新株予約権	137	167
非支配株主持分	25,776	28,041
純資産合計	<b>115,396</b>	<b>131,226</b>
● 負債・純資産合計	<b>208,932</b>	<b>234,122</b>

## 連結損益計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	前期 (2016.4.1～ 2017.3.31)	当期 (2017.4.1～ 2018.3.31)
売上高	175,398	187,398
売上原価	128,080	139,913
売上総利益	47,317	47,485
販売費及び一般管理費	26,803	26,710
営業利益	<b>20,514</b>	<b>20,775</b>
営業外収益	3,897	4,062
営業外費用	1,098	814
経常利益	<b>23,313</b>	<b>24,023</b>
特別利益	1,078	170
特別損失	982	1,420
税金等調整前当期純利益	23,409	22,773
法人税等	5,234	4,936
当期純利益	18,174	17,837
非支配株主に帰属する当期純利益	5,893	5,682
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>12,281</b>	<b>12,154</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位：百万円

科目	前期 (2016.4.1～ 2017.3.31)	当期 (2017.4.1～ 2018.3.31)
● 営業活動による キャッシュ・フロー	27,651	26,882
● 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 12,127	△ 19,734
● 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 8,863	△ 1,538
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 637	367
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	6,022	5,977
現金及び現金同等物の 期首残高	24,928	31,334
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	383	—
現金及び現金同等物の 期末残高	31,334	37,312

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）の残高は、前連結会計年度末と比較して59億77百万円増加し、373億12百万円となりました。  
当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### ● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、268億82百万円（前年同期比2.8%減）となりました。主な資金の増加は、税金等調整前当期純利益227億73百万円、減価償却費102億11百万円、仕入債務の増加額18億61百万円、主な資金の減少は、法人税等の支払額56億61百万円、持分法による投資利益23億12百万円であります。

### ● 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、197億34百万円（前年同期比62.7%増）となりました。主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出145億25百万円、定期預金の預入による支出33億52百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出24億74百万円、有形及び無形固定資産の売却による収入17億68百万円であります。

### ● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、15億38百万円（前年同期比82.6%減）となりました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出88億68百万円、リース債務の返済による支出15億66百万円、非支配株主への配当金の支払額35億49百万円、配当金の支払額18億45百万円、短期借入金の純増額84億54百万円、長期借入による収入56億98百万円であります。

## 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して251億90百万円増加し、2,341億22百万円となりました。これは主に現金及び預金が89億61百万円、有形固定資産が36億90百万円、投資有価証券が36億9百万円、受取手形及び売掛金が35億5百万円、出資金が18億76百万円、退職給付に係る資産が8億60百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して93億60百万円増加し、1,028億96百万円となりました。これは主に短期借入金が54億24百万円、支払手形及び買掛金が15億43百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して158億29百万円増加し、1,312億26百万円となりました。これは主に利益剰余金が103億9百万円、非支配株主持分が22億65百万円、その他有価証券評価差額金が16億58百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

## 日野自動車より「品質管理賞優秀賞」を受賞

3月1日に開催された「2018年日野自動車仕入先総会」で、TPRは「品質管理賞優秀賞」を受賞し、授賞式には岸社長が出席して記念の盾を授与されました。



同賞は、金賞（今年は該当なし）に次ぐ位置づけで、2年連続で不良件数：0を達成できたメーカーが対象（計8社）であり、TPRは2016年に続く受賞となりました。

## トヨタ自動車より「品質管理優良賞」受賞

2月23日に「2018年トヨタグローバル仕入先総会」が名古屋国際会議場で開催されました。

トヨタ自動車からは豊田社長以下役員及び、世界各国の仕入先が参加した本総会において、2017年度の仕入先表彰があり、TPRは「品質管理優良賞」を受賞しました。



## (株)ノブカワとノブカワ商事(株)がTPRグループ入り

TPRは、2017年12月13日にゴム製品の製造・販売を主業務とする(株)ノブカワの全株式を取得し、子会社化いたしました。

これにより当社グループは、新たなゴム商品、技術、顧客を獲得し、ゴム事業の収益規模拡大及び、(株)ノブカワが保有していたA練り技術及び製造ノウハウによるゴム材料分野へのビジネス拡大を進めてまいります。

また、TPRサンライト(株)との協業による多様なゴム製品の販売や顧客への提案力のアップ、TPR販売網を生かした自動車業界への拡販、TPR海外ゴム生産拠点を活用した(株)ノブカワ既存顧客の海外現調ニーズの取り込みなどのグループシナジー効果も実現してまいります。更に、TPR既存のパワートレイン事業とのシナジー効果も模索していきたいと考えております。



### ●新しいグループ会社の概要

#### 株式会社ノブカワ→2018.4.1より「TPRノブカワ株式会社」に社名変更済

- (1) 本社所在地 : 東京都千代田区神田鍛冶町3丁目3番地
- (2) 代表者 : 野田 明志
- (3) 事業内容 : 各種マスターバッチ、防振パッド、各種押出ゴム製品、押出スポンジ“ネオロン”、“サンカラー”、その他各種ゴム製品の製造、販売
- (4) 従業員数 : 80名（本社4名、福島工場45名、関西工場31名）

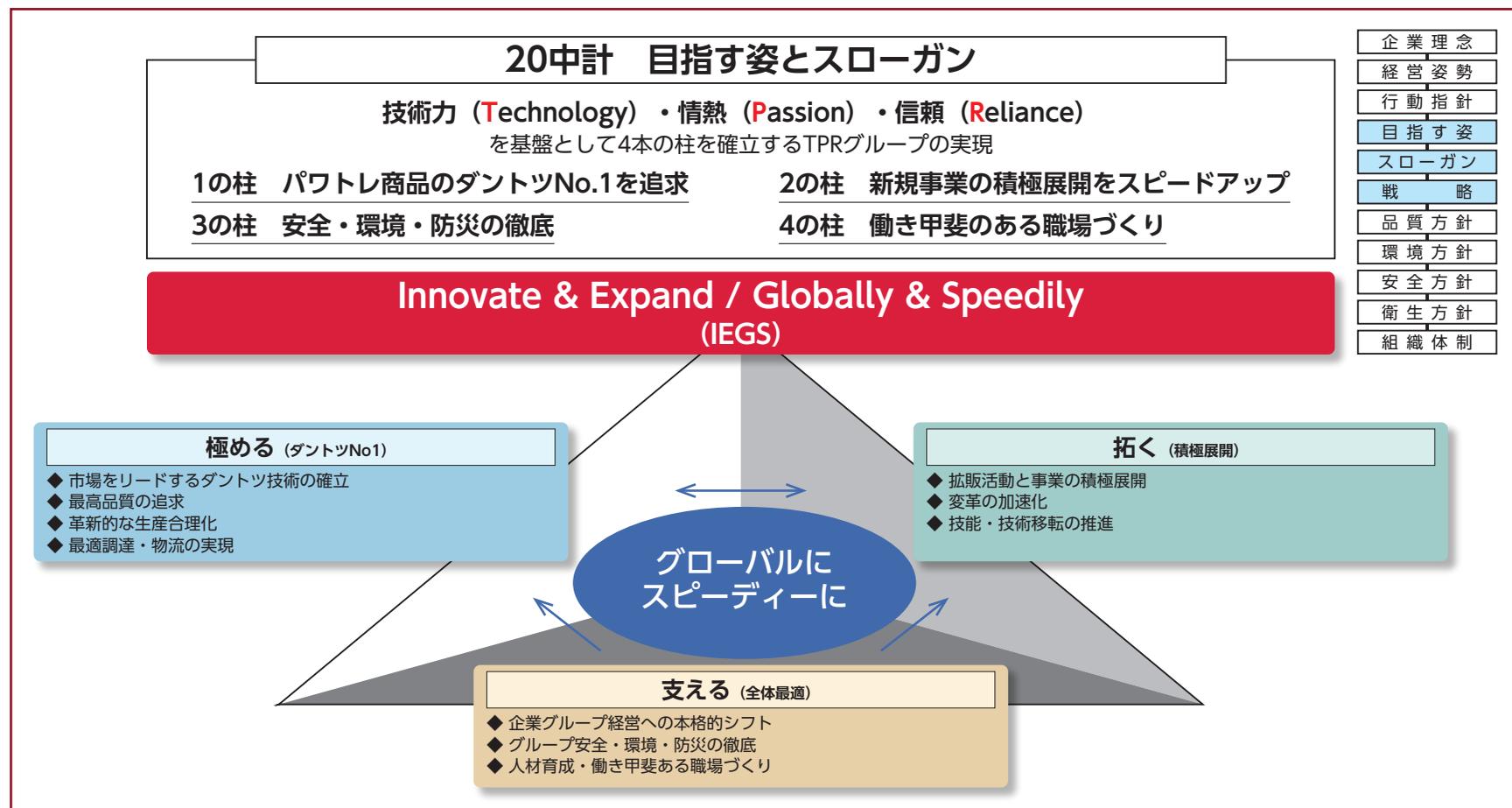
#### ノブカワ商事株式会社→2018.4.1より「TPRノブカワ商事株式会社」に社名変更済

- (1) 本社所在地 : 同上
- (2) 代表者 : 野田 明志
- (3) 事業内容 : 各種ゴム製品、合成樹脂製品の販売
- (4) 従業員数 : 10名（本社6名、大阪営業所4名）

当社は、第30回全社経営会議（第13回グローバル経営会議）を開催し、  
20中計（2018年度～2020年度の3ヶ年中期経営計画）をスタートさせました。

20中計の目指す姿とスローガンは下図の通りです。

すべてに共通する事項として『スピードアップ』を意識し、社員一人ひとりが『積極性』をもって参画し、会社や個人の成長を実感しながら誇りをもって仕事を遂行してまいります。



# 会社概要・株式の状況 (2018年3月31日現在)

## ■ 会社概要

- 社名 TPR株式会社
- 所在地 〒100-0005  
東京都千代田区丸の内一丁目6番2号  
新丸の内センタービル  
TEL: 03-5293-2811  
URL: <http://www.tpr.co.jp>
- 資本金 47億54百万円
- 設立 1939年12月3日
- 従業員 738名

## ■ 役員 (2018年6月28日現在)

<取締役・監査役>

- 代表取締役 山岡 秀夫
- 代表取締役 岸 雅伸
- 代表取締役 富田 健一
- 取締役 末廣 博
- 取締役 小松 良幸
- 取締役 矢野 和美
- 取締役 唐澤 武彦
- 取締役 吉江 博彦
- 取締役 鶴田 六郎
- 取締役 本家 正隆
- 常勤監査役 加藤 浩
- 常勤監査役 助川 豊
- 監査役 尾崎 眞二
- 監査役 蜷川 欽也

<執行役員>

- 会長兼CEO 山岡 秀夫
- 社長兼COO 岸 雅伸
- 副社長執行役員 末廣 博
- 専務執行役員 小松 良幸
- 専務執行役員 石田 政男
- 常務執行役員 林 孝光
- 常務執行役員 山岡 正治
- 常務執行役員 矢野 和美
- 常務執行役員 花岡 繁
- 常務執行役員 羽多野 裕一
- 常務執行役員 唐澤 武彦
- 執行役員 宮坂 佳介
- 執行役員 有賀 義和
- 執行役員 伊藤 俊宏
- 執行役員 小口 昌弘
- 執行役員 伊井 明彦
- 執行役員 北原 正裕
- 執行役員 茅野 務
- 執行役員 吉江 博彦
- 執行役員 古畑 敦
- 執行役員 小野 幸一
- 執行役員 守屋 弘明
- 執行役員 小林 純夫
- 執行役員 嶋野 泰臣

## ■ 株式情報

### 株式の状況

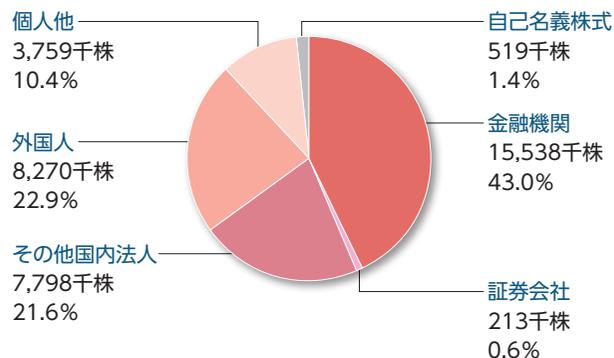
発行可能株式数	135,000,000 株
発行済株式総数	36,097,099 株
株主数	5,043 名
上記のうち議決権を有する株主数	4,392 名

### 大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	2,395,000	6.73
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	2,293,000	6.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,071,800	5.82
トヨタ自動車株式会社	2,070,600	5.81
株式会社みずほ銀行	1,518,800	4.26
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	1,393,500	3.91
ヒューリック株式会社	1,231,800	3.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,216,900	3.42
東京建物株式会社	933,687	2.62
TPR取引先持株会	914,900	2.57

(注) 持株比率は、自己株式 (519,308株) を控除して計算しています。(小数点第3位以下切捨て)

### 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- 定時株主総会 基準日 毎年3月31日  
開催日 毎年6月中
- 剰余金の配当 期末配当基準日 3月31日  
中間配当基準日 9月30日
- 単元株式数 100株
- 公告方法 電子公告 (事故その他やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載)  
<http://tpr.co.jp/>
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- お問い合わせ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等	みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店及び全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

■ ホームページアドレス <http://tpr.co.jp/>

## お知らせ

### 単元未満株式の買取制度について

単元未満株式 (100株に満たない当社株式) を当社が買い取る【買取制度】がご用意されています。

詳しくは、みずほ信託銀行 (0120-288-324) にお問い合わせください。

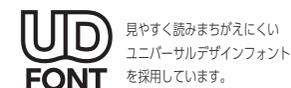
### ■ 買取制度の例 (150株ご所有の場合)



### 配当金の確定申告について

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

## TPR株式会社



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C013080

